

しものべさか
下延坂遺跡(本発掘調査B)

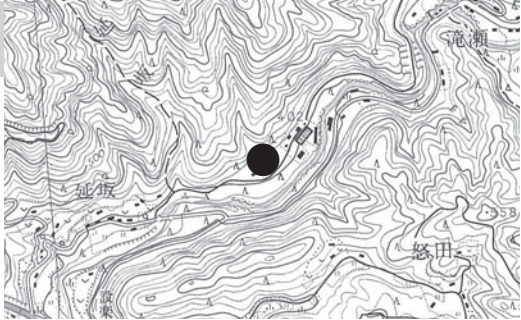
所在地 北設楽郡設楽町川向字上延坂・下延坂
(北緯35度06分58秒 東経137度34分28秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和5年9月～10月

調査面積 920㎡

担当者 鬼頭 剛・川添和暁・荒木徳人



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局による設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じて委託を受け、令和5年9月から10月にかけて実施した。調査面積は920㎡で、調査対象地は町道79号道路敷に当たり、調査区は北から順に、23Aa区、23Ab区、23Ac区、23Ba区、23Bb区の5か所を設定した。

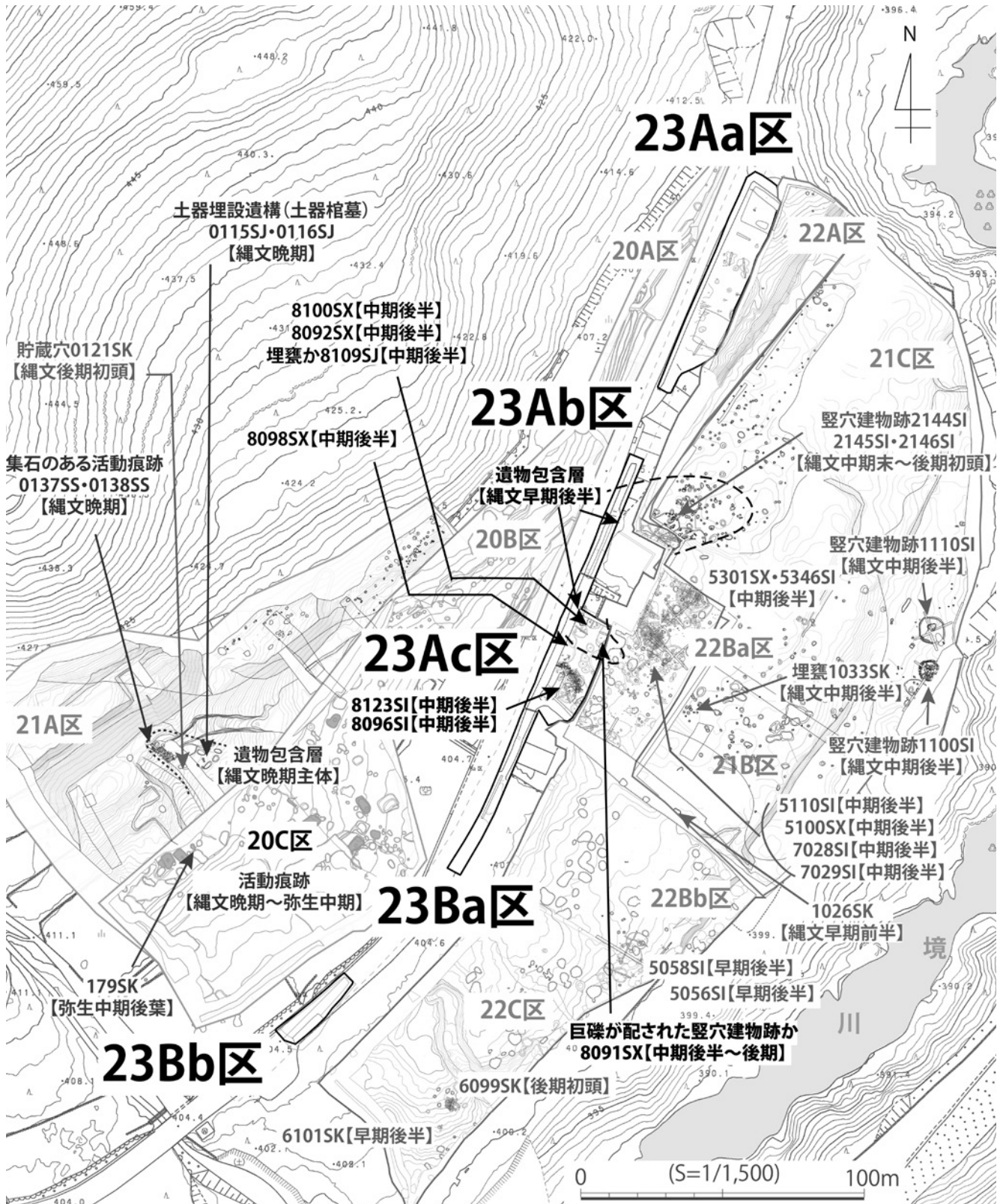
立地と環境 下延坂遺跡は境川右岸の河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地する遺跡である。町道79号は遺跡範囲中央を北東から南西に向かって貫く形となっており、北西から南東方向へと境川に向かって傾斜する地形の変換点に当たる。かつての調査区の位置関係は、以下の通りである。23Aa区は20A区および22A区の上に、23Ab区は20B区と21C区の上に、23Ac区は20B区と22Ba区の上に位置する。また23Ba区は20C区と22Bb区の上に、23Bb区は20C区と22C区の上に位置する。

調査の概要 基本層序は23Ac区西壁の土層断面情報が参考になる。上からⅠ層：表土・盛土・灰褐色粘土(道路整地層、旧耕作土1、120cm)【近代以降】、Ⅱ層：灰褐色粘土(旧耕作土2、80cm)【近世】、Ⅲ層：灰褐色粘土(旧耕作土3、40～60cm)【戦国期～近世】、Ⅳ層：黒褐色粘土(遺物包含層、60cm)【縄文時代中期～中世】、Ⅴ層：茶褐色の砂礫層(土石流堆積層、20cm)【縄文時代前期か】、Ⅵ層：灰褐色粘土質シルト層(水成堆積層・遺物包含層、20cm)【縄文時代早期後半】、Ⅶ層：一部砂礫を含む黄褐色粘土・シルト層、である。地形は、23Aa区から23Ab区に向かって傾斜している一方、23Ba区ではⅤ層の堆積が厚くなり、地形の高まりが形成されていた。各調査区の調査成果は、下表の通りである。

調査区		23Aa区	23Ab区	23Ac区	23Ba区	23Bb区
堆積層	Ⅰ	○	○	○	○	○
	Ⅱ	○	○	○	○	○
	Ⅲ	○	○	○	○	×
	Ⅳ	×	?	○	×	×
	Ⅴ	○	○	○	○	○
	Ⅵ	×	○	○	確認できず	確認できず
	Ⅶ	○	○	○	確認できず	確認できず
検出遺構		耕作地	耕作地	耕作地・竪穴建物跡4・土坑・ピット	耕作地	谷地形・耕作地
出土遺物		弥生土器片	縄文土器・石器	縄文土器・石器	縄文土器・石器	縄文土器

最も良好に保存されていた23Ac区では、Ⅱ層上面、Ⅲ層上面、Ⅳ～Ⅴ層上面で調査を実施し、最後にⅥ層の範囲を確認した。Ⅴ層上面では、縄文時代中期後半に属する竪穴建物跡を4基調査した。本調査区内では炉石が残された状態での石囲炉跡は検出されなかった。8091SXでは、掘り方隅で一列に配された巨石群を検出した。竪穴建物跡の構造の一部であったと考えられる。

(川添和暁)



下延坂遺跡 調査区全体図



23Bb区 全景(南から)



23Ba区南半分 (南から)



23Ac区近世耕作地 全景(北から)



23Ac区戦国期～近世耕作地 全景(北から)



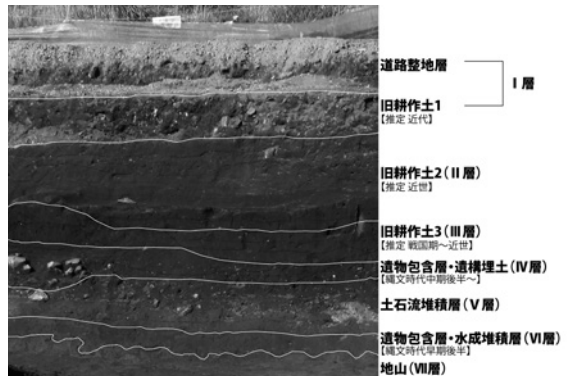
23Ac区 縄文時代遺構全景(上が西)



23Ac区 8091SX(南から)



23Ac区 8123SI(北から)



23Ac区西壁 土層断面